

授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	長南町立長南中学校
-----	----------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 全国平均・県平均とほぼ同じくらいだが、観点別に見ると「読むこと」「書くこと」がやや下回っている。
- 短答式や選択式の正答率は全国平均に比べて高いが、記述式問題が無解答となる生徒が極端に多い。
- 質問紙から、「自分の考えを書いたり、発表したりする活動が不足していたこと」がわかった。自分の意見を書くことに苦手意識をもった生徒が多い原因の一つとなっているのではないかと。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 「書く力」を身に付けるためには、「自分の考えをもつこと」、「何を問われ、何を書くべきかを生徒自身が理解すること」が必要である。そこで、各教科において、「根拠を明確にして自分の考えを説明したり、書いたりする活動」を積極的に取り入れる。
- 『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を活用し、単元計画に4つの学習過程を位置付けることで、主体的な学びにつなげる。
- 生徒の思考力や表現力を高めるために、ICT機器の利活用を図る。
- 少人数指導を実施し、生徒一人一人が「自分の考えを意識した学び」が行えるよう、個の学びに対する支援を行う。
- 「振り返りシート」を活用し、次時の学習課題を明確にさせる。また、繰り返し自分の言葉でまとめや振り返りを書くことによって、学習内容の定着を図る。

3. 具体的な実践

- 中学校1年生 「星の花が降るころに」～続編を書こう～
 - ・続編の条件として、「登場人物を変えない」「場面を一つ設定する」「比喩表現を使う」ことを約束事とし、これら进行分析する際の着目点と位置付けた。
 - ・効果的な「比喩表現」を使うにあたり、「デジタル教科書」を活用し、比喩表現を見つける活動を行った。
 - ・「物語の構想を立てる」際には、教師モデルを作り、「オクリンク」を活用して生徒に提示した。

- ・「書く活動」では、生徒自身が「タブレット入力」か「手書き」かの選択をし、各自にとって最適な学習方法を選べるようにした。

○ 中学校2年生 「根拠の適切さを考えて意見文を書こう」

- ・説得力のある意見文を書くために、意見文のテーマについてマッピングを活用し思考を広げた。
- ・説得力のある意見文にするために、インターネットを活用して根拠となる素材を集めた。
- ・自分の考えの根拠を明確にするために、観点を多角的に捉えた教師モデルを提示し、分析させた。
- ・「構成メモ」を作る際には1人1台端末の「オクリンク」を活用し、文章の構成について検討させた。

○ 中学校3年生 「多角的に分析して書こう」

- ・複数の「茂原七夕まつり」の広告を教材として、対象とする事柄の特性や価値などについて客観的に分析し、自分の考えをまとめた。
- ・それぞれの広告を分析したことについて意見交換（批評）を行った。
- ・構成表を元に批評文を書き、観点に基づいて推敲をし、清書を書き上げた。

4. 成果

- 『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』の4つの学習過程を位置付けたことで、主体的に学習を進めることができた。
- 「振り返りシート」を活用し、学習の「まとめや振り返り」を自分の言葉で書いて蓄積することで、生徒自身が学習で分かったことや課題の分析ができ、学習内容の定着につながった。
- ICT機器の活用により、友だちの考えの共有が容易となり、話し合い活動が充実した。自分の考えを明確化する学びを進められたため、生徒は意欲的に学習に取り組むことができた。とりわけ、「書くこと」を苦手とする生徒にとっては、学びやすい環境となった。
- 教師見本を提示して分析することで、学習の見通しをもつことができた。

◆担当指導主事から（教育事務所 指導主事 積田 裕子）

- 全国学力・学習状況調査の問題の分析と結果の分析をもとに、生徒の実態を捉えて、教科等横断的な視点をもって学校組織全体で「根拠を明確にして書くこと」の学習に取り組んだ。国語科における具体的な授業改善では、『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を活用して、複数の文章や資料を読み比べて、自分の考えを形成し、表現する力を高める授業実践を積み重ねることで、根拠をもとに自分の考えを表現する力の向上につなげてきた。